

奥州市教育振興運動推進協議会
江刺区教育振興会連合会 岩谷堂高等学校

- 「テーマ」
- 震災を超えて・新たな教育課題への取組
組織の見直し・地域コミュニティ再生の取組
 - PDCAサイクルによる推進の取組
年間を通じた全県共通課題・モデルプログラムの取組
 - 地域ぐるみによる「いわての復興教育」の取組
防災教育・被災地支援交流・地域を担う人材育成の取組

活動の様子



『 東日本大震災復興支援プロジェクト 』

1 地域の教育課題

生徒会で「ボランティア活動に力を入れる」ことを活動目標の一つにしていたところ、3月11日の東日本大震災が起り、ボランティア活動の中心を震災復興支援にすることとした。

＜目標＞

- (1) 「自分たちにできる」復興支援
- (2) 「継続的な」復興支援

2 役割分担と年間の計画

○課題解決のためのそれぞれの役割

＜子ども＞

生徒が活動の計画を立てた
うちわへのメッセージ記入
募金活動

＜保護者＞

絵本・文具の提供

＜先生＞

各所への調整
絵本・文具の提供

＜地域＞

うちわの提供
募金

＜行政＞

「実践の記録」を発行し活動成果の周知

○ 課題解決のための年間の取組
(23年度)

ア. うちわプロジェクト (全校生徒参加)

イ. 街頭募金

ウ. 絵本、文具プロジェクト など

(24年度)

ア. 陸前高田市広田町の海水浴場の石拾い
瓦礫撤去 など

3 取組の様子

(23年度取り組み)

ア. うちわプロジェクト

報道機関の協力を得て、市内の皆さんにうちわの提供を呼びかけたところ、大きな反響があり、約1600本のうちわが集まった。学校では、アニメ研究部、美術部がイラストを描き、写真部は地域の特色表れる写真を提供し、書道選択者が毛筆で励ましの言葉を書いた。それらをシールにして印刷し、うちわの骨組みと共に全校生徒に配布し、LHRの時間に各自で被災者へのメッセージを一枚一枚記載した。

完成したうちわを被災地の小中学校、公民館、保育園、老人ホーム等に運び、避難している方々に配布した。

イ. 街頭募金 (生徒20名参加)

江刺区のスーパー等数ヶ所で募金活動をし、約80万円を集めた。

ウ. 絵本、文具プロジェクト (生徒6名参加)

津波で絵本や文具が流され、保育園等で困っているという状況を聞き、生徒や職員に呼びかけ、絵本・文具を集め、募金と共に陸前高田市・大船渡市の保育所や教育委員会に届けた。

(24年度取り組み)

ア. 震災復興支援活動 (生徒142名参加)

陸前高田市の海水浴場にて、石拾い、がれき撤去を行った。作業内容は砂浜に埋まっている石や瓦礫をかごに入れ、所定の場所まで運ぶ内容。生徒たちは暑い中の作業であったが、大変良くがんばった。地域の方々からも感謝の言葉を頂いた。

4 課題解決を判断する評価の方法

今回の支援活動を行うことで、自分のためだけでなく、「自分ができることで誰かのために何かをする」ことの大切さを学び取り、狭くなりがちな視野や思いやりの心を育むことができた。

復興にはまだまだ時間がかかると思われる。今後も、「自分たちにできる」「継続的な」復興支援を行っていきたい。